

## 序 文

この年、わが關西大學は創立80周年を迎え、11月4日、祝賀の式典を挙げるとともに、その記念行事の一つとして記念論集の編纂を企画した。その1冊として発刊されたのがこの「經濟論集」である。もちろん本学においても学問研究の場としての日常の研究成果は、各学部の機関誌、付置研究所の紀要などをもって随時発表されている。しかし、大学の歴史の由緒ある一区切りにおいて、現任のスタッフ多数の新しい研究成果を一書に収録し、敢えて世に問うことは、恰も日頃培われた研究的精力が一斉に開花を競うにも似て、単なる自祝以上の意義をもつことと思われる。

本学におけるこの種の記念論集は、創立50周年のそれを嚆矢とし、第二次大戦中の60周年を措いて、70周年に第2回目が刊行されている。最初の論集は法律・政治、経済・商業、文学の三部門に区分された諸論文からなる1冊の書となっているが、第二回目のそれは法、経、文、商の各学部ごとに編集された4冊の論集となっている。そして第3回目に当る本論集も、第2回目の方式を踏襲して各学部機関誌の特輯号の形をとった。ただ前回は4学部4冊であったに対し、今回は昭和33年新設の工学部を加え、5学部5冊で完成することになる。すなわちこのような記念論集の成長は、本学における研究活動の、特に近年における充実、発展を示す何よりの表徴と見られ得るであろう。

本論集の各論文は、それぞれの研究分野における關西大學現在の

学問的水準を示すものである。そしてそれはまた、各分野における学問的進歩に何らかの貢献を致す研究であることを信じて疑わない。なおいえばそれは、前回の諸論文に対比して、この10年間における学問進歩の跡を示すであろうし、さらに将来に向っては、一層の進歩のためのよき礎石ともなるであろう。執筆者諸氏に敬意を表するとともに、各学部編集委員諸氏の労に対しても謝意を表したい。

昭和40年11月4日

關 西 大 學

學 長 森 川 太 郎